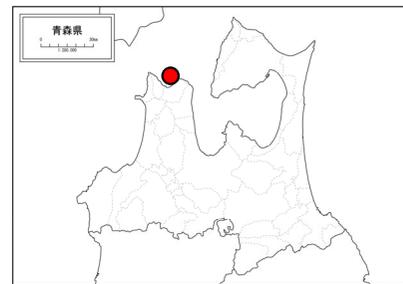


16. 【陸域：直売所】 漁港用地を活用した地域住民の生活に必要な直売所の整備 ：今別漁港（青森県今別町）

概要

- 今別漁港では陸揚量の減少が課題であり、また町内の小売店の相次ぐ閉店や北海道新幹線駅の開業を控え、地元産品を買うことができる販売施設の整備が望まれていた。
- このため、補助用地と単独用地を交換して用地を確保し、既存施設を増築して漁港内に農水産物販売所を整備した。
- 年間約2千8百人の利用客が訪れ、地域振興に寄与している。



背景

- ・今別漁港では、近年、主要魚種のいかなごや養殖ホタテの陸揚量が高水温被害等により激減している。
- ・町内では、平成25年に農産直売所及び民間スーパーが閉店したことで、地元で買い物する場が失われ、いわゆる買い物弱者の増加が懸念されていた。
- ・北海道新幹線駅の開業により、町を訪れる観光客の増加が期待できる。

有効活用の内容

- ・漁協運営の健全化、地元産品販売による地域振興を図るため、補助用地である荷さばき所用地と県単独用地である加工場用地を交換し、活魚施設1階（2階は漁協事務所）を増築して農水産物販売所を整備した。
- ・現在は、今別町商工会が運営し、冷凍モズク等の漁協の加工品や鮮魚、野菜等の地元産品を販売しており、主に地元の利用客による売り上げ及び入込客数は順調である。また、観光客向けの観光情報の提供も行っている。

活用した漁港施設	漁港施設用地（補助用地である荷さばき所用地と単独用地である加工場用地を交換）
実施時期	平成25年12月
実施主体	竜飛今別漁協
活用した事業	今別町補助事業
実施した手続き	占用許可、漁港施設用地利用計画変更



効果

- ・年間約2千8百人の利用と、約2百万円の売り上げ（直近3カ年平均）があり、民間スーパーの閉店等による買い物弱者の救済に繋がったほか、漁村の核となる漁港に買い物客等の来訪者が増え、賑わいが創出された。

